

学校 自己評価 報告書

(平成 2 7 年度)

愛知産業大学工業高等学校 通信制課程 (単位制)

目 次

I 学校の現況	2
----------------	---

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神	3
----------------------	---

(2) 愛知産業大学工業高等学校通信制課程(単位制)の教育目標	3
---------------------------------	---

(3) 愛知産業大学工業高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針	3
-----------------------------------	---

学校自己評価

(1) 渉 外	4
---------	---

(2) 校 務	4
---------	---

(3) 教 務	5
---------	---

(4) 進 路	6
---------	---

(5) 総 務	6
---------	---

(6) 指 導	7
---------	---

(7) 生活相談	7
----------	---

(8) 事 務 局	8
-----------	---

(9) 教職員アンケート集計結果	9
------------------	---

学校関係者評価

学校関係者課題・意見	11
------------	----

I 学校の現況

(1) 学校名

愛知産業大学工業高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒460-0016

名古屋市中区橘一丁目2番25号

TEL : 052-322-5255 FAX : 052-322-5259

ホームページ : <http://asu-tchs.jp/>

(4) 沿革

昭和36年 前身の愛知工芸高等学校が創立する。

昭和37年 学校名を東海工業高等学校に改称する。

昭和40年 東海工業高等学校に通信制課程普通科を設置する。(4年制)

昭和51年 東海工業高等学校が技能連携を開始する。

平成 元年 通信制課程修業年限が3年に改正される。

平成 8年 東海工業高等学校に通信制課程単位制(普通科)を設置する。

平成12年 東海工業高等学校通信制課程単位制の新校舎が完成する。

平成13年 学校名が愛知産業大学工業高等学校に改称される。

平成22年 愛知産業大学工業高等学校通信制課程単位制校舎改装。

平成23年 愛知産業大学工業高等学校創立50周年を迎える。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校(専門学校高等課程)と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通・電気・機械科があり技能連携を結ぶことによって専門学校の学修を本校の単位として認定することが出来る。本校単位制には、4つのコース(平日コース〔午前・午後〕・通学コース・個別対応コース・日曜コース)を設けている。

(6) 技能連携校

名古屋工学院専門学校高等課程

東海工業専門学校熱田校高等課程

あいち造形デザイン専門学校高等課程

専門学校緑ヶ丘女学院高等課程

(7) 学科の構成

名古屋工学院専門学校高等課程	普通科、電気科
東海工業専門学校熱田校高等課程	普通科、機械科
あいち造形デザイン専門学校高等課程	普通科
専門学校緑ヶ丘女学院高等課程	普通科
愛知産業大学工業高等学校単位制	普通科

(8) 生徒数（平成27年5月1日現在）

	普通科		電気科		機械科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	369	119	246	3	235	1	973
2年生	302	86	206	2	191	0	787
3年生	278	99	171	0	173	1	722
計	949	304	623	5	599	2	2,482

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学工業高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

通信制課程は、その時々社会情勢に大きく影響するため、その動静によって変革していく必要がある。生徒一人一人に対する教育内容の充実をはかり、より質の高い生徒の教育を実践していく。又、通信制は、社会の要望に沿った通信制教育を実践し、地域社会に根ざした教育活動を心掛けていくことが大切である。

(3) 愛知産業大学工業高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、他の高等学校からの転入学生であり、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、全員卒業させることをモットーとし、その上で教科指導や進路指導・悩み相談を行っていかなければならない。

学校自己評価

(1) 渉外

重点目標
① 年間入学目標数を確保する。
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。
④ 学校説明会昨年参加人数を上回るよう努力する。
⑤ 退学者の減少に努力する。
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告を行う。
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。

【課題】

- ・ 学校説明会をどのような方法で周知させるか。
- ・ 広域通信制高校と本校教育の違いをどのようにアピールするか。
- ・ 知名度をどのようにして上げ、入学者及び入学相談数に繋げるか。
- ・ 退学者減少の施策を検討する。

【改善方策】

- ・ ホームページから資料請求と学校説明会の申し込みを行いやすいように工夫する。
- ・ 狭域制の高校として、地域に根ざした学校教育を実践している事をアピールする。
- ・ 学校説明会の実施方法を毎年検討する。
- ・ 名古屋市内の公立高校の訪問を行い、入学者増に繋げる。
- ・ 自クラス生徒の出席状況を把握し、家庭連絡を密にする。

(2) 校務

重点目標
① 校内における生徒の事故をゼロにする。
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。
④ 日直を中心とした校内整備を行う。
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。

【課題】

- ・ 8号館の破損箇所や機械不備による修理箇所の増加。
- ・ 近隣に迷惑をかけない為に、窓を開放できない。
- ・ 通学コース以外、生徒による毎日の清掃を行うことができない。

【改善方策】

- ・校内における飲食の禁止を徹底して、ゴミを減少させる。
- ・使用教室を確実に把握して、未使用教室の節電をはかる。
- ・校舎の破損箇所は、27年度中に修理する。
- ・教員による週末清掃によって、教室の美化整備にあたる。

(3) 教務

重点目標
① 各科目の単位修得率75%を達成する。
② 生徒の基礎学力向上に努める。
③ 試験による不正行為をなくす。
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。
⑤ 保護者会全員出席を目指す。
⑥ “よく分かる授業”の実践に心掛ける。
⑦ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、脱帽、居眠り)
⑧ 授業の視聴覚教材を作成する。
⑨ 技能連携校スクーリング新教材の作成と確認を行う。
⑩ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。

【課題】

- ・在籍生徒の学力差が大きく、授業の進め方が難しい。
- ・基本的な生活習慣が確立されていない生徒やアルバイト中心の生徒の欠席が目立。
- ・自分の力だけでレポートを完成させることができない生徒がいる。

【改善方策】

- ・授業レポートの作成は、基礎的な内容を精選し授業内容を工夫することにより、生徒の学力に対応する。
- ・欠席の多い生徒に対しては、家庭連絡を行い保護者に周知、協力いただき不認定にならないように努める。
- ・授業中のマナーの向上は、継続的に指導する。
- ・入学説明時に、時間数・レポート提出・試験などについて丁寧に説明・確認し、折に触れ資料を作成・配布することで周知を図る。
- ・今後、インターネットを利用し、出席レポート提出状況が確認できるシステムを構築する。
- ・基礎学力向上に向けて、総合学習、特別活動の時間を活用する。
- ・教育課程表の変更により、国語・数学・英語の3教科に基礎科目を設定する。
- ・インターネットを利用した映像授業システムを構築する。
(日曜コース、個別対応コース生徒の利用を28年度中に開始する。)
- ・女子生徒に対する挨拶や電話応対等のマナー講習を実施する。

(4) 進路

重点目標
① 進学率40%以上を目指す。
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。
③ フリーター・ニート等による進路未定者の減少を目指す。
④ 担任が自クラスの進路を把握する。
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。

【課題】

- ・自分の進路に対して、行動に移す時期が遅い。
- ・就職希望者の就業意識が低く、アルバイト継続で良いとの感覚である。
- ・進路希望と努力が正比例していない。

【改善方策】

- ・進路調査を2年末に行い、進路意識を持たせると共に担任が自クラスの進路希望を把握する。
- ・6、7月に就職説明会、進路説明会を行い、進路に対する高い意識を持たせる。
- ・学校斡旋就職希望者に対しては、7月のジョブ・キャンパスエクステンションに参加させて希望の就職企業を選択させ内定に結びつける。
- ・就職内定に結びつく資格取得の奨励を促す。(特別教育活動に一環として認定する)
- ・生徒理解、適性、状況を判断し、適正な進路指導を行うようにする。未決定者への指導を強化する。
- ・就職希望先決定について、保護者との連携、確認を行いミスマッチがないようにする。

(5) 総務

重点目標
① ホームページの更新は時宜を得て行う。
② ホームページから資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。
③ 学校の情報を「お知らせ」にて保護者・生徒に適切に提供する。
④ 学校説明会の案内を効果的に配布する。

【課題】

- ・ホームページのアクセス数の向上に努める。
- ・学校説明会の開催情報を効果的に発信できないか。

【改善方策】

- ・Google、yahooの検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。

- ・転入学元の学校に「学校説明会」開催情報を適宜流す。
- ・「お知らせ」欄を随時更新して、最新の情報を流す。

(6) 指導

重点目標
① 登下校時の事故ゼロを目指す。
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。
③ 自転車事故「ゼロ」を目指す。
④ オートバイ・自家用車での登校禁止を徹底する。
⑤ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。
⑥ 校内における飲食物の取り扱いに対する指導を徹底する。
⑦ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。
⑧ 健康診断通知配布と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配布する。

【課題】

- ・登下校中の喫煙行為が減少しない。
- ・年1回の健康診断を2日設定しても、受診しない生徒がいる。
- ・公共モラルの向上。

【改善方策】

- ・「産業社会と人間」「総合的な学習」の時間に、高校生としてのモラルと法律の遵守を指導する。
- ・何事も自己都合を優先するのではなく、社会の一員として行動できるようにその都度根気よく指導する。
- ・違反生徒は、保護者に来校いただき、教頭面談を実施して注意喚起を促し再発防止に努める。
- ・3年生は、全員健康診断を受診するように担任から連絡する。
- ・各公共機関で学生割引の適用を受けているので、モラルの向上は必須である。

(7) 生活相談

重点目標
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。(家庭との連絡を密にする)
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。

【課題】

- ・学習意欲欠如による不登校と精神的な不登校の区別の判断が難しい。
- ・全日制カウンセラーに継続的に協力を依頼しなければならない。

- ・カウンセリングを受けている生徒の対処方法。

【改善方策】

- ・心療内科に通院している生徒に対しては、個別対応コースでの授業を勧める。
- ・単位取得と卒業を優先するのではなく、生徒のペースで学習が継続できるように家庭と連絡を密にして単位の修得に結びつける。

(8) 事務局

重点目標
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。
③ 就学支援金事務作業を円滑に行う。
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。
⑤ 窓口対応を適切に行う。
⑥ 年間生徒単位修得個票の家庭への送付を行う。

【課題】

- ・技能連携校に関する事務作業を行う必要があり、業務の縮小が難しい。
- ・教務データの一元化とデータの汎用性の相関関係が容易ではない。
- ・就学支援金事務作業が個人によって異なるため、煩雑さは解消できない。

【改善方策】

- ・過去の卒業生データの電子化には膨大な時間がかかるため、資料作成での時間短縮を図る。
- ・事務局と教務でそれぞれ必要なデータの絞り出しを行い、一元化を進める。
- ・専任事務員2人体制を維持する。

以上